

第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



小学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

『やくせなかった言葉』

インドネシア

ブリティッシュスクールジャカルタ

小学三年 高橋 英志郎

やくせなかつた言葉

ブリティッシュスクールジャカルタ 小学三年

高橋 英志郎 (たかはし えいしろう)

ぼくは今、海外で生活しています。夏休みに一時帰国して、以前所ぞくしていたサッカーチームの合宿にさんかしました。夕食の時、号れの係に指名されました。コーチが、せっかくだから英語でやって、と言いました。新しいメンバーはぼくのことを知らないの、まず自己しょうかいをして、次の日のために気合を入れてから「いただきます」を言うことになりました。ぼくは、はりきって前に出ました。英語の勉強のせいを見せたいと思っただけです。

はじめはうまくいきました。自己しょうかいの後

「明日もみんなで一しょに、サッカーをがんばりましょう。」

と、英語で言いました。ところが、さい後に「いただきます」のかけ声をかけようとして、ぼくはこまってしまいました。英語で何と言えよいのかわからなかったからです。しばらく考えて、けっきょく

「いただきます。」

と、日本語で言いました。

家に帰ってからも、そのことが気になっていました。それで、ほんやくのアプリでしらべてみました。すると、とんでもないけっかが出ました。なんと「いただきます」は英語で「Let's eat」というのです。それはぜひいこうそだと思いました。「いただきます」が「もらおう」のけい語だと知っていたからです。だから、英語のやくを自分で考えました。けれど「I will receive this.」とか「I will have my dinner.」とかも、少しちがう気がして、ますますなやんじりまじりました。

ぼくは、このことを家族に話しました。お父さんも、お母さんも、お兄ちゃんも、それはやくせないといいました。お母さんが、動物や植物の命をいただいていることに感じやして「いただきます」ということを教えてくれました。それに、食べ物育てたり、運んだり、作ったりしてくれた人たちにも「ありがとう」の気持ちで言うのだと言いました。ぼくは、一度の食事で、ずいぶんたくさんの人や動物や植物に「ありがとう」を言うのだなと思えました。しかも、一日に三回やるから、本当にすごくたくさんです。

それなら「Thank you for the food.」がよいかなく、一しゅん考えました。でも、やっぱりそれではだめです。「いただきます」の、すごくたくさん「ありがとう」は、英語ではかたんに言えないと思えました。そして、これはすごい日本語だ、と思えました。はじめは、やくせなかつたことがくやしかったけど、今は、日本語にはとくべつな言葉がある、ということがわかってうれしです。